

## 会社概要

(2022年9月30日現在)

商号	中央化学株式会社
設立	1961年1月30日 (創業1957年)
資本金	72億1,275万円
決算期	3月31日
従業員数	1,629名(連結)

### ●役員一覧 (2022年10月1日現在)

代表取締役社長	早澤 幸雄
取締役	森本 和宣
取締役	松浦 哲也
取締役	鍋木 礼彦
取締役	松本 吉雄
常勤監査役	佐藤 直純
監査役	三尾 伸夫
監査役	中村 竜一



事業活動やサステナビリティ、IR情報など、詳しくはホームページをご参照ください。

## 株式情報

### ●株式の概要

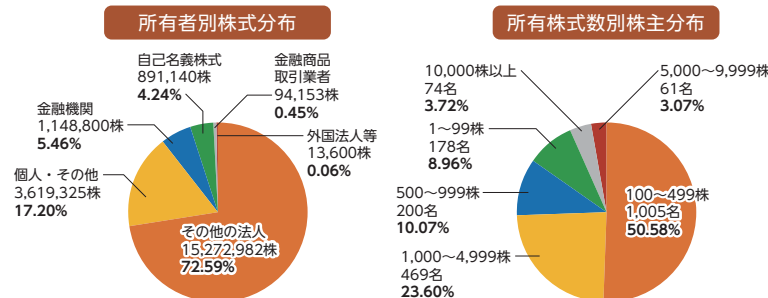
(2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	普通株式	40,000,000株
	A種優先株式	2,000株
発行済株式の総数	普通株式	21,040,000株
	A種優先株式	2,000株
株主数	1,987名	

### ●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所スタンダード市場(2022年4月より)
公告の方法	電子公告(当社ホームページ) <a href="https://www.chuo-kagaku.co.jp">https://www.chuo-kagaku.co.jp</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### ●株主構成 ※2022年9月30日現在の普通株式の株主名簿上での名義で記載しております。



# 株主通信

## 第63期 中間決算報告

2022.4.1 ▶ 2022.9.30

- トップメッセージ
- 財務諸表
- カーボンニュートラル社会の実現に向けて
- 環境配慮型素材を使用した新製品を続々とリリース
- 中国事業紹介
- 会社概要・株式情報



## 株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご愛顧とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、近藤康正前代表取締役を引き継ぎ、10月1日付にて、私、早澤幸雄が当社代表取締役役に就任致しました。

新体制においても、近藤前社長が推進した企業体質の強靱化方針を継続し、「変革、挑戦、開発」のスローガンの下、全社一丸となって取り組んでまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

中央化学株式会社  
代表取締役社長 早澤 幸雄

## 第63期上期の振り返り

本年2月末のロシアによるウクライナ侵攻を機に原油・ガス価格は高騰し、折から進んでいた円安の影響も重なって当社の主要原料である合成樹脂価格や電力費、物流費などが大きく押し上げられることとなりました。

国産ナフサ価格は22年第2四半期に1キロリットル当たり8万6000円を超え、第3四半期はわずかに下落したものの、当社の製造コストに大きな影響を与えております。

当社は生産・物流効率の一層の改善や、徹底的な経費削減によりコストアップの吸収に努めましたが、自助努力によるコスト増の吸収には限界があり、昨年11月に続き、本年5月にも価格改定のお願いをさせて頂きました。

お客様には短期間に2度にわたる大きなご負担をお願いすることとなり、丁寧な説明に努めてまいりました。本方針へのご理解を頂けましたことを深く感謝申し上げます。

国内販売においては、TALFA(タルファー)・C-APG・MAPKA(マップカ)などの環境配慮型製品や食品ロス削減に向けたEver Value(エバーバリュー)などの機能製品の販売が伸びましたが、原材料費の高騰や巣籠もり需要の減少などの影響を受け、売上は増加しましたが、営業利益は減少しました。

中国事業においては、中国政府によるゼロコロナ政策の厳しい運用により、生産・物流・販売面で大きな影響を受け、円換算では売上は増加しましたが、現地通貨建てでは売上、営業利益共に減少しました。

以上により、第63期上期の連結業績は、営業利益14百万円、経常利益1百万円、当期純利益▲24百万円という結果となりました。

## 今後の取り組み

第63期下期における原料価格は引き続き高止まりする見込みですが、製品の価格改定の効果を着実に取り込むことで収益改善を図る計画です。社是である「全員創意」の下、わが社が独自に開発した環境配慮型製品や機能製品の一層の拡充により、お客様が抱える課題の解決に貢献し、販売数量拡大につなげていきます。

中国においては日本より先行して環境規制が強化されているという背景もあり、日本では製造していない生分解性樹脂を原料とする耐熱容器やパルプモールド製品、木製カトラリーなどの新製品をすでに上市しております。これらの製品は日本の展示会でもご評価いただき、お客様への新たなご提案として拡販に努めていく方針です。

また、事業基盤の強靱化と財務体質の強化に向け、2018年度より継続するオペレーション改革により、生産効率向上、物流の最適化をさらに進めてまいります。

## 最後に

当社の利益配分に関する基本方針は、安定的な配当、内部留保の充実、財務体質強化等を考慮しながら総合的に判断、決定することとしており、足元の事業環境、経営状態において今後着手すべき経営課題を踏まえると、一段の財務体質強化が避けられないと判断しております。

このような状況を鑑み、誠に遺憾ではございますが、前期と同様に当中間期の配当は見送りとさせて頂きましたことを心よりお詫び申し上げます。

新型コロナウイルス感染の長期化や未だ終結の見通しの立たないウクライナ危機に加え、物価上昇に伴う消費の低迷など、当社を取り巻く事業環境は予断を許さない状況ではあります。

当社としては、これまで以上にコスト削減に取り組むとともに、全社一丸となって会社全体を抜本的に「改革」し、新市場・成長市場の開拓に「挑戦」し、創意工夫をこらして「開発」に挑むことに邁進いたします。

株主の皆様には、引き続きのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。

社是

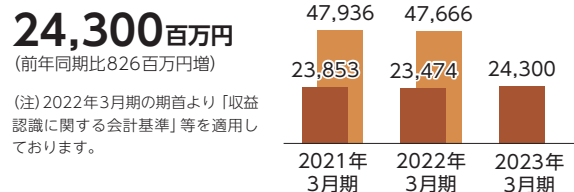
## 全員創意

企業理念

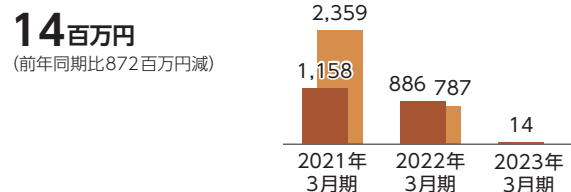
- 1. 企業姿勢** 私たちは、社是「全員創意」のもとに豊かな発想と積極果敢な行動で世界の生活と文化をサポートする企業集団を目指します。
- 2. お客様** 私たちは、より良い品質とサービスで、お客様の満足と信頼を得る企業を目指します。
- 3. 社員** 私たちは、失敗を恐れずあらゆる課題に積極果敢に挑戦し、社会の発展と自己の実現を目指します。
- 4. 社会との調和** 私たちは、地球環境の保全と限りある資源の保護に努め、国内外の地域文化を尊重し、社会との調和に努めます。
- 5. 株主** 私たちは、株主の投資に対する期待と信頼に十分応えられるように努めます。

収益の状況(連結) 単位：百万円

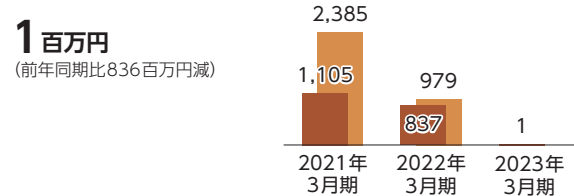
売上高



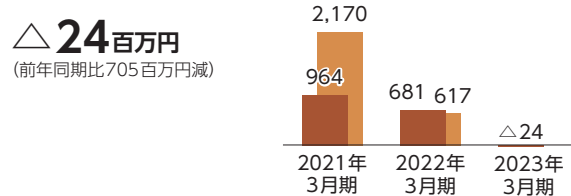
営業利益



経常利益

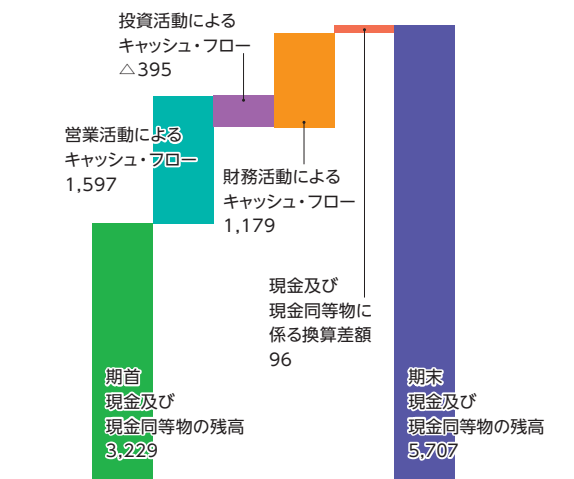


親会社株主に帰属する当期純利益



キャッシュ・フローの状況(連結) 単位：百万円

(2022年4月1日～2022年9月30日)



資産の状況(連結) 単位：百万円

(2022年9月30日現在)

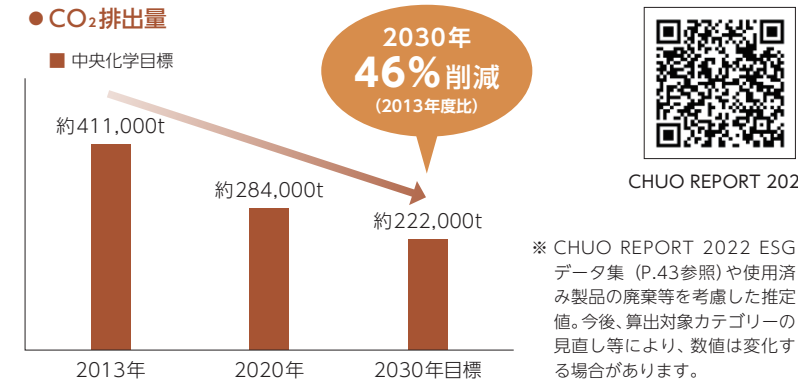


## カーボンニュートラル社会の実現に向けて

中央化学は、引き続き社是「全員創意」・企業理念・今年策定した「CO<sub>2</sub>排出量削減目標」の下、企業活動に誠心誠意取り組んで参ります。

### CO<sub>2</sub>排出量削減目標とその取り組み

リサイクル素材やバイオマス由来原料の活用、製品製造時の省エネルギー化、輸送効率の向上、プラスチック廃棄物の削減、食品ロス削減に寄与する製品開発などあらゆる方式を駆使してカーボンニュートラル社会実現に向けた取り組みを行います。



### CO<sub>2</sub>排出量削減に向けた当社の取り組み

注力する取り組み	2030年度目標
資源循環リサイクル	PET製品のC-APG化 <b>100%</b>
環境配慮型素材・製品の開発	PSP、OPS、C-APG製品の軽量化 <b>▲5%</b> 環境配慮型製品の販売割合増加 <b>7倍</b>
食品ロス対策	機能性容器の販売数量増加 <b>8倍</b>

※ 2023年3月期の業績予想については、現時点で合理的な算定、予想することが困難であるため、記載しておりません。

## 環境配慮型素材を使用した新製品を続々とリリース

当社が掲げるCO<sub>2</sub>排出削減目標を達成するため、環境配慮型素材である「TALFA」「MAPKA」「C-APG」を用いた新製品を続々とリリースしています。最新の環境配慮型製品をご紹介します。

### TALFA®

プラスチックの使用量を抑えるため、天然資源素材「タルク(無機鉱物)」を含有し、ポリオレフィン樹脂を50%未満に抑えた、環境負荷低減に寄与する複合素材です。PP容器と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約49%削減することができます。



### TA OCTAL

環境配慮型素材TALFAを使用した内嵌合の新しいテーブルウェアです。



### MAPKA®

MAPKAは、紙パウダーを主原料とした環境配慮型素材です。PP容器と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約41%削減することができます。



### MPK cucuri

環境配慮型素材MAPKAを使用した外食店のこだわりメニューが伝わるシンプルなテイクアウト容器です。

### CHUO A-PET green®

C-APGは、PETボトルのリサイクル原料を使用した環境配慮型素材で、A-PET容器と比較してCO<sub>2</sub>排出量を約27%削減することができます。



### C-APG OFL

環境配慮型素材C-APGを使用した青果容器で、青果の上を覆うフィルムをなくすことで、作業効率の向上を図れます。

※ MAPKAは株式会社 環境経営総合研究所の登録商標です。

## 中国事業紹介

当社は1994年より中国に進出し、中国の経済成長とともに中国事業も発展してきました。現在では中国市場のみならず欧米・東南アジアなど、食品容器を通して、世界の食文化の発展に貢献しております。さまざまな環境配慮へのニーズに応えるべく、独自の技術開発、素材・製品開発に着手。中国のみならず日本、世界各国でご提案してまいります。

### 環境対応

### お客様のニーズに中国事業独自技術で応えます

#### ● 分解性で環境に配慮：耐熱生分解性プラスチックシリーズ

2025年までに都市部の飲食・フードデリバリーで使用される非分解性プラスチックの使用量30%削減を掲げる中国。当社はタルクコンパウンド技術を応用し、耐熱生分解性プラスチックの開発に成功。既に上市している食品包装容器に加え、本年度はカトラリーシリーズの展開も予定しております。

植物由来のPLA(ポリ乳酸)樹脂を使った弁当容器



#### ● 非石化資源で環境に配慮：自製紙容器

プラスチックの代替品として欧米を中心に注目を集める紙容器。東莞中央化学(広東省東莞市)では、紙容器製造ラインを導入。紙容器の分野でも、食品包装容器に求められるお客様のニーズの製品化と日系企業の安全・安心を提供致します。

自製紙容器



### 環菱中央化学

### 新事務所へ移転しました

当社中国事業の統括管理を目的として設立された環菱中央化学は設立10年を迎えた今春、事務所を移転致しました。今後展示ショールームの併設を予定しており、お客様に当社の取り組みをご紹介します。

#### ● 新住所

上海市闵行区合川路3088号8号楼

環菱中央展示ショールーム  
(イメージ)

